



## 平成23年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成23年1月28日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社ブルボン

コード番号 2208 URL <http://www.bourbon.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 吉田 康

問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役 財務管理部長 (氏名) 山崎 幸治

TEL 0257-23-2333

四半期報告書提出予定日 平成23年2月14日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成23年3月期第3四半期の連結業績(平成22年4月1日～平成22年12月31日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
23年3月期第3四半期	74,909	0.1	1,864	△28.1	1,700	△33.1	361	△63.8
22年3月期第3四半期	74,826	0.4	2,594	19.6	2,542	36.1	998	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
23年3月期第3四半期	15.00	—
22年3月期第3四半期	47.61	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
23年3月期第3四半期	62,843	32,226	51.3	1,336.13
22年3月期	62,401	32,356	51.9	1,341.38

(参考) 自己資本 23年3月期第3四半期 32,226百万円 22年3月期 32,356百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
22年3月期	—	6.00	—	7.00	13.00
23年3月期	—	6.50	—	—	—
23年3月期 (予想)	—	—	—	6.50	13.00

(注) 当四半期における配当予想の修正有無 無

### 3. 平成23年3月期の連結業績予想(平成22年4月1日～平成23年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	102,600	0.4	3,000	△20.3	2,900	△19.1	1,000	△35.9	41.46

(注) 当四半期における業績予想の修正有無 有

4. その他（詳細は、【添付資料】P. 3「2. その他の情報」をご覧ください。）

(1) 当四半期中における重要な子会社の異動 無

新規 一社（社名 ）、除外 一社（社名 ）  
（注）当四半期会計期間における連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動の有無となります。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用 無

（注）簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用の有無となります。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

① 会計基準等の改正に伴う変更 有

② ①以外の変更 無

（注）「四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」に記載される四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の有無となります。

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む） 23年3月期3Q 27,700,000株 22年3月期 27,700,000株

② 期末自己株式数 23年3月期3Q 3,580,563株 22年3月期 3,578,470株

③ 期中平均株式数（四半期累計） 23年3月期3Q 24,120,484株 22年3月期3Q 20,979,411株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続を実施中であります。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

1. 平成22年5月6日に公表いたしました通期連結業績予想を本資料において修正しております。

2. 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報 .....	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報 .....	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報 .....	3
2. その他の情報 .....	3
(1) 重要な子会社の異動の概要 .....	3
(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要 .....	3
(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要 .....	3
(4) 継続企業の前提に関する重要事象等の概要 .....	3
3. 連結財務諸表等 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書 .....	6
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 .....	7
(4) 継続企業の前提に関する注記 .....	8
(5) セグメント情報 .....	8
(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 .....	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間（平成22年4月1日～平成22年12月31日）におけるわが国経済は、アジアを中心とした新興国の需要による企業業績の回復や設備投資の増加など一部に緩やかな景気回復傾向が見られたものの、欧米の景気減速化や急激な円高の進行などにより外需効果が薄れるとともに、厳しい雇用環境やデフレ状況にも改善が見られず、先行きの不透明感が増す状況で推移いたしました。

菓子、飲料、食品業界は、所得の伸び悩みによる先行き不安から慎重な消費行動が続き、低価格・節約志向により個人消費は本格的な回復には至りませんでした。

当社グループは、食品製造企業として、安全・安心・安定および健康を基とした品質保証第一主義に徹し、顧客満足度を高める活動を推進してまいりました。消費者の生活防衛意識による厳しい商品選別が続くなか、市場のニーズに機敏かつ柔軟に対応し、実質価値の高い商品と消費者ニーズにお応えしたサービスの提供、需要を喚起する積極的な企画提案型営業活動の実施に努めてまいりました。その結果、記録的な猛暑や残暑により菓子類の需要は影響を受けたものの、夏季商材のデザート品目が伸張するとともに、第3四半期に発売した新製品の中で好評をいただいたものがありました。豆菓子品目、キャンデー品目、デザート品目、食品品目が伸張するとともに、チョコレート品目、スナック品目、チューインガム品目が前年同期並みの推移となり、売上高は前年同期を若干上回りました。

しかし、収益面では当初の見込み以上に原材料価格やエネルギーコストが上昇したことと、販売競争激化に伴う販促活動の強化を図ったことなどにより営業利益、経常利益とも前年同期を下回り、退職給付制度の改定に伴う損失の発生などにより四半期純利益も前年同期を下回りました。

#### 営業品目別の概況

菓子の合計売上高は70,166百万円（対前年同期比99.6%）となりました。

- ビスケット品目は、新製品を加えたファミリーサイズ商品群、品揃えの充実を図ったギフト商品群、袋ビスケット商品のリニューアルなどにより好評をいただいたものの、猛暑、残暑の影響が残り前年同期を下回りました。
- 豆菓子品目は、リニューアルした「チーズDeおつまみ」、受験生応援商品などの催事企画商品が好評をいただき前年同期を上回りました。
- キャンデー品目は、新形状・新食感のグミ商品「フェットチーネグミ（シチリアレモン味）」「フェットチーネグミ（イタリアングレープ味）」や販売ルート限定商品などが好調に推移し前年同期を大きく上回りました。
- デザート品目は、記録的な猛暑や残暑が好調要因となったことに加え、実質価値の高さとテレビコマーシャルの実施などにより、くだものいっぱいゼリーシリーズ、食後の0（ゼロ）kcalシリーズ、ギフト商品群などが伸張し、前年同期を大きく上回りました。
- 米菓品目は、季節の味を加えたチーズおかき、柿の種をチーズクリームやチョコレートで包んだ特徴ある新製品、プチシリーズ米菓商品群の品揃え充実などにより好評をいただいたものの、既存品が伸び悩み前年同期を下回りました。
- スナック品目は、ハロウィンやクリスマスなどをテーマにしたキャラクターデザインのポテトチップを展開、販売ルート限定商品にも取り組み前年同期並みの推移となりました。
- チョコレート品目は、スリバードアーモンドとクランチアーモンドをミルクチョコレートにぎっしりちりばめた「アーモンドラッシュ」が秋の発売以来、好調に推移いたしました。残暑の影響を受けたものの前年同期並みの推移となりました。
- チューインガム品目は、3種類の味が楽しめる粒ガム、アソート3シリーズの品揃え強化やキューブ型のフルーツボトルガム「キュービロップガムボトル」の展開を図り前年同期並みの推移となりました。

飲料・食品・その他の合計売上高は4,742百万円（対前年同期比107.6%）となりました。

- 飲料品目は、ボイセンベリー・ストロベリー・ブルーベリーの果汁を配合したホット専用の果汁飲料「ホットベリー」を新しく発売いたしました。健康志向飲料「酔てきスタイル125ml」は伸張したもののミネラルウォーターは伸び悩み、競争激化のなか全体では前年同期を下回りました。
- 食品品目は、家庭内需要の高まりにより、ミルクココア商品が伸張するとともに、牛乳に溶かして飲むボイセンベリー使用の粉末飲料などに継続した支持をいただき、前年同期を大きく上回りました。

特に機能性食品は、引き続きカロリーの質に着目したバランス栄養食品のスローバーシリーズの展開に取り組みました。

- その他品目では、通信販売事業は、催事企画商品の展開や企画提案の強化などに取り組み、継続した支持をいただきました。自動販売機事業は、多様な商品を総合的に取り扱うプチモールの設置台数の増加に伴い伸張いたしました。また、酒類販売事業は卸売免許を取得いたしました。

以上の営業活動により業績の向上に努めてまいりました結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は、74,909百万円（対前年同期比100.1%）、営業利益は1,864百万円（対前年同期比71.9%）、経常利益は1,700百万円（対前年同期比66.9%）、四半期純利益は361百万円（対前年同期比36.2%）となりました。

## (2) 連結財政状態に関する定性的情報

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、62,843百万円となり、前連結会計年度末比441百万円の増加となりました。これは主に、季節変動による「受取手形及び売掛金」の増加と新発田工場の増築および中国工場の生産ラインの新設等により有形固定資産が増加した反面、「現金及び預金」が減少したことによるものです。負債は、30,616百万円となり、前連結会計年度末比570百万円の増加となりました。これは主に、季節変動による「支払手形及び買掛金」の増加および退職給付制度の改定に伴い「退職給付引当金」が増加した反面、法人税等の支払いおよび賞与の支給等があったことによるものです。純資産は、32,226百万円となり、前連結会計年度末比129百万円減少し、自己資本比率は51.3%となりました。

### (連結キャッシュ・フローの状況に関する定性的情報)

当第3四半期連結累計期間における営業活動によるキャッシュ・フローは、1,426百万円の収入（前年同期3,879百万円の収入、対前年同期比36.8%）となりました。これは主に、税金等調整前四半期純利益1,153百万円および減価償却費2,621百万円があったことと法人税等の支払額1,842百万円があったことによるものです。

投資活動によるキャッシュ・フローは2,952百万円の支出（前年同期2,146百万円の支出、対前年同期比137.6%）となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出2,914百万円があったことによるものです。

財務活動によるキャッシュ・フローは890百万円の支出（前年同期1,632百万円の支出、対前年同期比54.6%）となりました。これは主に、借入金の返済による支出432百万円および配当金の支払額316百万円があったことによるものです。

以上の結果、当第3四半期末の現金及び現金同等物の残高は、前第3四半期末に比べ121百万円増加し、6,425百万円となりました。また、前連結会計年度末に比べ2,433百万円減少となりました。

## (3) 連結業績予想に関する定性的情報

平成22年5月6日に公表いたしました通期連結業績予想を修正しております。詳細につきましては、本日発表の「平成23年3月期通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

## 2. その他の情報

### (1) 重要な子会社の異動の概要

該当事項はありません。

### (2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要

該当事項はありません。

### (3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要

- ・ 会計処理基準に関する事項の変更

資産除去債務に関する会計基準の適用

第1四半期連結会計期間より、「資産除去債務に関する会計基準」（企業会計基準第18号 平成20年3月31日）及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日）を適用しております。

これにより、当第3四半期連結累計期間の営業利益及び経常利益は、それぞれ4百万円減少し、税金等調整前四半期純利益は26百万円減少しております。また、当会計基準等の適用開始による資産除去債務の変動額は16百万円であります。

### (4) 継続企業の前提に関する重要事象等の概要

該当事項はありません。

3. 連結財務諸表等

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	当第3四半期 連結会計期間末 (平成22年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	6,415	8,849
受取手形及び売掛金	14,079	12,444
有価証券	10	9
商品及び製品	3,665	3,144
仕掛品	488	443
原材料及び貯蔵品	2,585	2,390
その他	1,786	1,833
貸倒引当金	△137	△175
流動資産合計	28,893	28,939
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	8,515	8,236
機械装置及び運搬具（純額）	9,049	8,794
その他（純額）	7,599	7,513
有形固定資産合計	25,164	24,544
無形固定資産		
のれん	2,157	2,266
その他	474	530
無形固定資産合計	2,631	2,797
投資その他の資産		
その他	6,160	6,289
貸倒引当金	△7	△169
投資その他の資産合計	6,152	6,120
固定資産合計	33,949	33,462
資産合計	62,843	62,401

(単位：百万円)

	当第3四半期 連結会計期間末 (平成22年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	10,605	9,118
短期借入金	2,385	2,447
未払法人税等	214	1,330
賞与引当金	318	917
返品引当金	92	79
その他	8,032	7,419
流動負債合計	21,648	21,312
固定負債		
長期借入金	1,534	1,905
退職給付引当金	6,105	5,527
役員退職慰労引当金	162	162
資産除去債務	16	—
負ののれん	32	33
その他	1,116	1,105
固定負債合計	8,967	8,733
負債合計	30,616	30,045
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	1,036	1,036
資本剰余金	7,386	7,386
利益剰余金	24,863	24,824
自己株式	△577	△575
株主資本合計	32,708	32,671
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△308	△180
為替換算調整勘定	△173	△134
評価・換算差額等合計	△482	△315
純資産合計	32,226	32,356
負債純資産合計	62,843	62,401

(2) 四半期連結損益計算書  
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)
売上高	74,826	74,909
売上原価	43,607	43,892
売上総利益	31,218	31,016
販売費及び一般管理費	28,624	29,152
営業利益	2,594	1,864
営業外収益		
受取利息	23	14
受取配当金	51	54
負ののれん償却額	0	1
その他	84	66
営業外収益合計	158	137
営業外費用		
支払利息	40	36
減価償却費	51	43
為替差損	94	210
その他	23	10
営業外費用合計	210	300
経常利益	2,542	1,700
特別利益		
貸倒引当金戻入額	—	113
その他	—	16
特別利益合計	—	129
特別損失		
固定資産処分損	45	36
減損損失	10	7
投資有価証券売却損	75	—
退職給付制度改定損	—	521
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	—	21
その他	—	90
特別損失合計	131	677
税金等調整前四半期純利益	2,411	1,153
法人税、住民税及び事業税	1,061	758
法人税等調整額	151	32
法人税等合計	1,212	791
少数株主損益調整前四半期純利益	—	361
少数株主利益	200	—
四半期純利益	998	361

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年12月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	2,411	1,153
減価償却費	2,572	2,621
のれん償却額	49	109
受取利息及び受取配当金	△74	△69
負ののれん償却額	△0	△1
支払利息	40	36
為替差損益 (△は益)	95	229
固定資産処分損益 (△は益)	45	36
減損損失	10	7
投資有価証券売却損益 (△は益)	75	△15
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	—	21
売上債権の増減額 (△は増加)	△1,902	△1,649
たな卸資産の増減額 (△は増加)	728	△768
仕入債務の増減額 (△は減少)	862	1,502
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△521	△598
その他	1,039	621
小計	5,431	3,235
利息及び配当金の受取額	70	69
利息の支払額	△40	△35
法人税等の支払額	△1,582	△1,842
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,879	1,426
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△2,186	△2,914
投資有価証券の取得による支出	△132	△131
投資有価証券の売却による収入	205	53
その他	△32	39
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,146	△2,952
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の返済による支出	△1,000	△25
長期借入金の返済による支出	△341	△407
配当金の支払額	△188	△316
その他	△102	△141
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,632	△890
現金及び現金同等物に係る換算差額	△3	△16
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	97	△2,433
現金及び現金同等物の期首残高	6,206	8,858
現金及び現金同等物の四半期末残高	6,303	6,425

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報

[事業の種類別セグメント情報]

前第3四半期連結累計期間(自平成21年4月1日至平成21年12月31日)

当社グループは食品製造企業として同一セグメントに属する、ビスケット類、米菓類、飲料食品等の製造、販売を行なっております。当該事業以外に事業の種類がないため、該当事項はありません。

[所在地別セグメント情報]

前第3四半期連結累計期間(自平成21年4月1日至平成21年12月31日)

本邦の売上高は、全セグメントの売上高の合計に占める割合が90%超であるため、所在地別セグメント情報の記載を省略しております。

[海外売上高]

前第3四半期連結累計期間(自平成21年4月1日至平成21年12月31日)

海外売上高は、連結売上高の10%未満であるため、その記載を省略しております。

[セグメント情報]

当社グループの事業は、食品製造企業として同一セグメントに属する、ビスケット類、米菓類等の菓子及び飲料食品等の食料品の製造・販売並びにこれらの付随業務であり、単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(追加情報)

第1四半期連結会計期間より、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」(企業会計基準第17号 平成21年3月27日)及び「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第20号 平成20年3月21日)を適用しております。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。